

廃棄麺のメタンガス利用

「うどん発電」開始へ

ちよだ製作所 9月にも売電

産業機械メーカーのちよだ製作所(高松市)は、廃棄うどんなどから電気を作る「うどん発電事業」を始める。廃棄麺を発酵させて作ったメタンガスを燃料に発電機を稼働させ、9月にも四国電力への売電を開始する。年間発電量は一般家庭約50世帯分に相当する18万kWhを見込む。発電プラントの販売も検討しており、年内の受注開始を目指す。

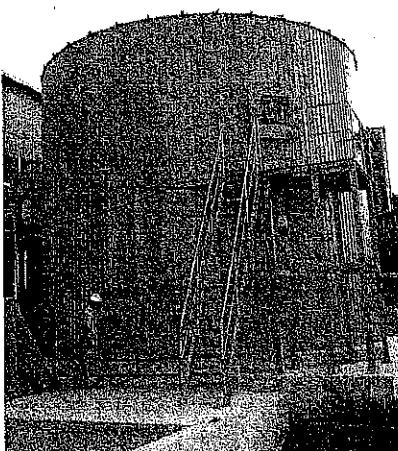
同社は、県内の製麺会社の燃料として使用。うどんの工場から出る廃棄うどんや生ごみを入れた発酵槽の原料にバイオエタノールを生産している。ただ、エタノール生産後も残りかすが出ていたため、残りかすの有効活用策としてメタンガスを使った発電事業を始める。5月に、総工費約8千万円をかけ、同市香雨町の自社敷地内に直径8m、高さ8mの発酵槽を備える発電プラントを建設した。

うどん発電は、エタノールの生産に使ったうどん1・5tと、発電量を補うために飲食店などから回収した生ごみ1・0tを1日分

資格を取得したことで生ごみ収集による収入も確保。合計収益は1200万円程度になるといふ。

同社では、うどん発電事業をモデルケースに、発電プラントの受注生産も計画。年内の受注を目指している。

同社は「再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度によって、事業としての採算が見込めるようになった。発電プラントも食品メーカーや畜産業者の需要が期待できる」としている。



廃棄うどんからメタンガスを作る発電プラント
高松市香雨町

